



東京清掃労働組合
 千代田区飯田橋3-9-3
 TEL (3237) 9995
 1部20円

編集責任
 企画・総務局
 多田修一郎

わが組合の綱領

- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働者の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

首都直下型地震、そのとき23区の災害廃棄物処理体制は？

現在、東京都で災害廃棄物処理計画が策定され、それを受けて各区での計画が策定される予定となっています。首都直下型地震が30年以内に起きる確率は70%と言われ、被災自治体からは、災害廃棄物が生活圏からなくなれば、復旧・復興は始まらないと言われています。こうした状況の中、今回の自治研集会は「災害廃棄物処理を考える」をテーマに開催されました。



第54年次地方自治研究集会を開催



梁書記長

8月20日(日)自治労会館において自治研集会が開催されました。今年は「災害廃棄物処理」をテーマに熊本の実体験の報告を受け、防災訓練に戸別訪問収集宅の安否確認を取り入れている練馬区の報告、工場部門での災害時の対応、収集部門・工場部門の組合員と区議会議員によるパネルディスカッション等、一日開催ではありませんでしたが濃密な内容の集会となりました。参加者についても組合員以外に、区議会議員や区



中村書記次長(練馬総支部)

民、東京自治研センターの方を含めて135名の参加で白熱した議論が繰り広げられました。熊本の報告では熊本市役所職員組合の上田二三男氏をお迎えして発災の様子から、「地震災害ごみ特別収集」終息宣言が出るまでの過程や様々な問題点についての報告がありました。現場の状況を想定せずに出されたマスコミ報道により、混乱した集積所を現場から



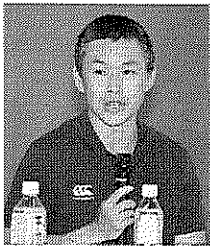
上田二三男氏(熊本市役所職員組合)

声をあげて少しずつ改善していったこと、委託現場の処理の遅れ、仮置き場の設置場所の問題等、反省点を含め赤裸々に報告いただきました。練馬総支部の中村書記次長からは東日本大震災後の復興支援の様子と清掃事業視察で5年後に再訪したときの様子をDVDを上映しながら報告をいただきました。仮設住宅などの取り壊しも始まっていますが、街並みや市民の心の中では未だ復興は道半ばであること、また被災した方々が前向きに取り組んでいる姿に感銘を受けたことが報告されました。



西村書記長(一組総支部)

震災総合訓練についてもDVDを上映しながら、清掃職員が災害時何をするのか、清掃工場の大規模震災時における役割と課題について、一組総支部の西村書記長(常任中執)より報告がありました。清掃工場は250ガル以上(震度6以上)になると緊急停止となります。また、堅牢な清掃工場には近隣住民の一時避難場所としての役割と東京都との「協定」で警察・消防・自衛隊の活動拠点としての役割があります。など、なかなか知られていない情報について報告がありました。



佐藤書記次長(一組総支部)

続いて清掃工場からの出来ることは何なのか、改めて考えることが出来ました。震災時における役割と課題について、一組総支部の西村書記長(常任中執)より報告がありました。清掃工場は250ガル以上(震度6以上)になると緊急停止となります。また、堅牢な清掃工場には近隣住民の一時避難場所としての役割と東京都との「協定」で警察・消防・自衛隊の活動拠点としての役割があります。など、なかなか知られていない情報について報告がありました。



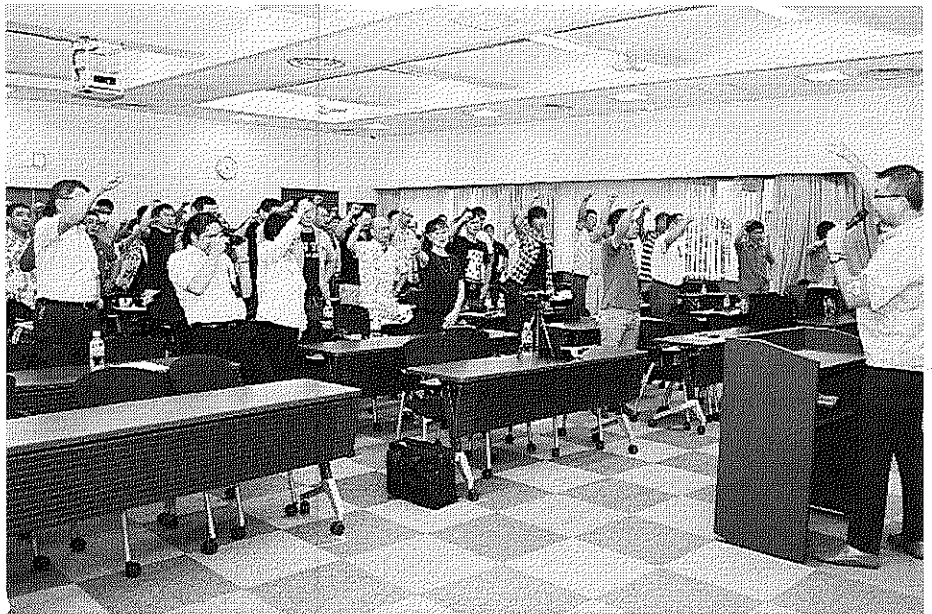
秋原中央執行委員(板橋区担当)

千代田区の小枝区議、江東区の中村区議からは、事前アンケートの内容について説明を頂きながら、パネルディスカッションにご参加いただきました。また、会場からも多くの意見や質問が出ました。真摯に答えられていたパネ



パネルディスカッションでは、江東区の中村区議と千代田区の小枝区議、板橋区担当の秋原中執、一組総支部の佐藤書記次長をパネラーに野崎常任中執をコーディネーターとして各区の災害廃棄物対策の進捗状況について議論が進められました。

佐藤書記次長からは、清掃工場について前段で説明があったとおり、発災時に清掃工場には様々な役割があります。夜間に起きた場合には5~6名の職員しかおらず、また委託されている工場もあります。そんな状況で本当にこれだけの役割がこなせるのか不安であることや、近隣住民の一時避難場所となっているが、非常食の備蓄は職員の分のみで毛布すら用意されていない現実が現場の声として切実に語られました。



秋原中執からは支部の状況として、自治研でなに？という状態から実行委員会を始めて、災害対策のことについて組合員にアンケートをとりながら、災害時の対応について何もわかっていないという自覚を持つところからの出発だった。当局もマニュアルはあっても

良くわかっていない。区の防災担当も各課に丸投げ状態のなか、折衝を重ね、ようやく清掃課の担当者もやる気を出してきた。まだまだこれからだが、今日の熊本の話を参考にしながら取り組んでいきたい。と組合員や当局を巻き込んでの取り組みについて話がありました。

千代田区の中村区議からは、事前アンケートの内容について説明を頂きながら、パネルディスカッションにご参加いただきました。また、会場からも多くの意見や質問が出ました。真摯に答えられていたパネ

最後に梁書記長より集会の一の皆さんに感謝したいと思いを。最後に梁書記長より集会の一の皆さんに感謝したいと思いを。最後に梁書記長より集会の一の皆さんに感謝したいと思いを。

千代田区の中村区議、江東区の中村区議からは、事前アンケートの内容について説明を頂きながら、パネルディスカッションにご参加いただきました。また、会場からも多くの意見や質問が出ました。真摯に答えられていたパネ

清掃労働組合の存在意義をかけた大きな取組みです。災害廃棄物対策を主な課題としながらも、多くのことを考える契機となった実りある集会となりました。というところで締めくくり集会を終了しました。(多田修一郎)

